

6 977564 516383
FL-122ER
83-017
PLUS Stationery Corporation
MADE IN CHINA
グリーン購入法適合
環境には90%再生
ポリプロピレンシート
を使用しています。
レット

2 RING FILE
A4
140
Sheets

記

1. 助成対象事業
子どもと確かめる淀川源流域の環境
2. 助成金額
¥145,000.
3. 基金及び基金の寄付者
この助成金は当財団に寄せられた次の基金及び寄付者によるものです。
東洋ゴムグループ環境保護基金

奈共募発第 200-②号
平成 19 年 2 月 28 日

NPO法人 ほっとねっと
伊 藤 満 様

社会福祉法人 奈良県共同募金会
会 長 古 林 繁 文

赤い羽根共同募金住みよい地域づくり支援事業
・(平成 19 年度事業に対する) 配分金交付決定の通知について

標記の件について、貴会より申請のありました事業に対して、奈良県共同募金会配分委員会で審議し、平成 18 年度共同募金に寄せられました寄付金より、下記のとおり配分金の交付を決定しましたので通知いたします。

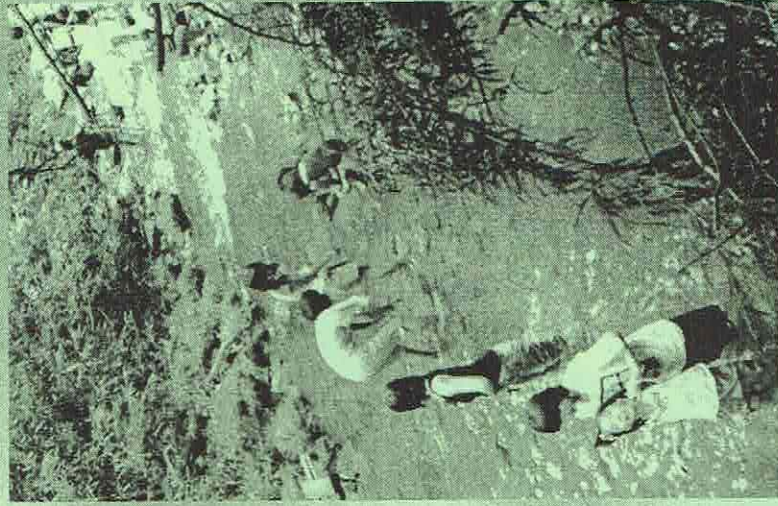
別紙「様式 1. 共同募金配分金交付請求書」を平成 19 年 4 月 1 日以降に本会まで提出ください。事業の実施時期に考慮し配分金をまず半分交付いたします。配分金事業終了後は速やかに「様式 2. 共同募金配分金事業完了報告書」に関係書類を添えて提出ください。その後残りの半分の半分を交付いたします。助成事業の実施に際しては下記留意事項に従ってください

記

- ◆配分金額…金 100,000 円
- ◆配分決定事業…冒険遊び場「ひーとびーとの森」でプレイパーク

「子どもと確かめる淀川源流域の環境」5回め

「ひーとびーとの森」の下を流れる内牧川（淀川源流）の生き物、水の様子を子どもと大人で確かめよう！



場所：ひーとびーとの森

(奈良県宇陀市榛原区八滝) 裏面に地図



10:30~15:00

●10:30~12:30

水質調査・清掃

アマゴ放流・観察

釣りの入門・川遊び

●12:30~13:30

風食、プレイパーク説明

●13:30~15:00

冒険遊び場で自由遊び

(友達づくりのチャンス!)

■参加費 (保険代・資料代含む)

18歳以上 300円 6歳以上 150円

■持ち物

弁当・水筒・長靴・着替え・タオル

自然観察&プレイパークinひーとびーとの森

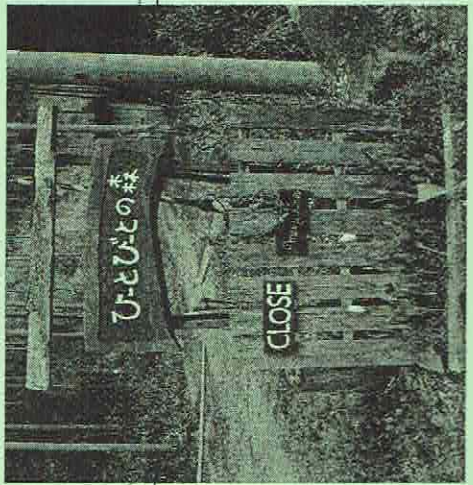
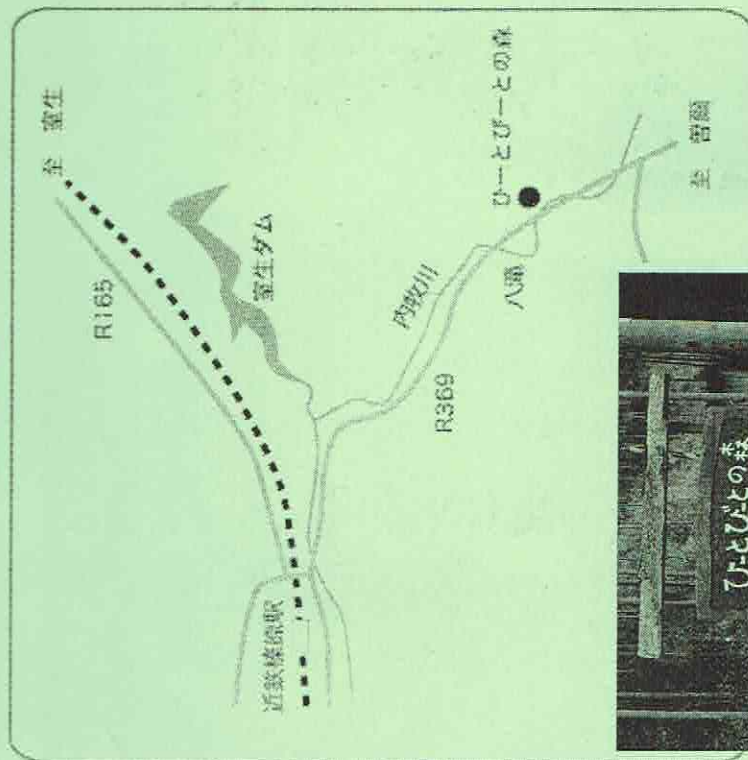
問合せ：TEL0742-64-0015、09082339172(夜間)

Email: npohotnet@yahoo.co.jp

(裏面にFAX用申込用紙あり)

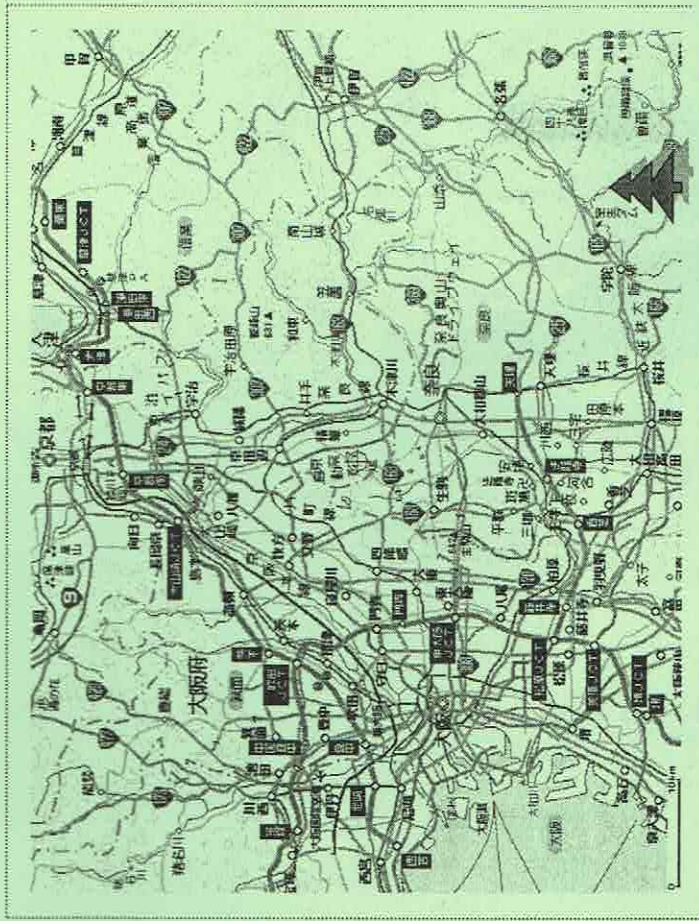
NPO 法人ほっとねっと

周辺地図



←入口の看板です

近鉄榛原駅から・・・
(奈良交通バス)
 上内牧行き or
 曾爾役場前行き
 入滝下車徒歩3分
(車)
 369号線を曾爾村方面へ
 (約10分～15分)



ひとびとの森

奈良県宇陀市榛原区八滝 (榛原自動車様向かい)

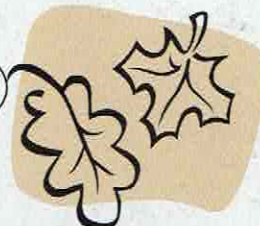
3月30日申込用紙 FAX0742-64-1640 TEL0742-64-0015

(代表者のお名前)		(参加人数) ※当日変更可	
(連絡先) ※TEL, FAX, Emailなど		人	
(当日連絡用の携帯電話番号)			

赤い羽根共同募金 助成事業

冒険遊び場「ひーとびーとの森」でプレイパーク

ネイチャーゲームを楽しむ



「ひーとびーとの森」の秋!

日時：11月18日（日）10時30分～15時

場所：ひーとびーとの森（奈良県宇陀市榛原区八滝）

※ 369号線沿い、榛原自動車様向かい。奈良交通バス榛原駅→八滝駅下車

参加費：18歳以上300円、6歳以上150円（6歳未満無料）保険料込み

持ち物：バندوقナ、弁当、水筒（動きやすい服装で!）

プログラム：10時30分～12時ネイチャーゲーム、12時～13時昼食

13時～15時プレイパーク（自由遊び&おやつ作り）

主催・申込・問合せ：ほっとねっと（TEL0742-64-0015、npohotnet@yahoo.co.jp）

周辺地図



FAX 申込用
(0742-64-1640)

代表者氏名

連絡先 TEL か Email

参加人数

人

「助成事業の実施内容および成果（要約）」

助成した基金の名称	東洋ゴムグループ環境保護基金		
助成事業の名称	子どもと確かめる淀川源流域の環境		
団体名	特定非営利活動法人 ほっとねっと	代表者氏名	伊藤 満

事業の実施内容：

- ① 冒険遊び場「ひーとびーとの森」のすぐ下を流れる「内の牧川」の川の様子、キットを利用しての水質調査、生き物観察を通して「水」や「川」についての認識を深めた。
- ② 川辺の環境保護の一環として「内の牧川」周辺の清掃を行った。
- ③ 「内の牧川」にアマゴを放流し、その行動を観察するとともに、アマゴの生きられる条件やアマゴをエサにする生き物などについての学習をして源流にふさわしい環境について考えた。また今後の活動に生かすため、今後のアマゴの生育状況の定期的な観察の仕方についても学んだ。

※これらのことを、地元の人（県内在住者）と大阪の人と一緒にやることで、同じ淀川流域に住んでいる、というつながりを認識しあった。

（実施日程）

- 5月19日：生き物観察による水質調査と川幅等川の様子についての学習と川辺のごみ拾い。
- 6月23日：川辺の蛍観察と川を汚さないキャンプ料理づくり、廃油キャンドル夕食会。
- 7月28日：川の中を歩き、違う地点での川の様子、動植物の違いを観察。川辺の清掃。
- 11月18日：秋の川辺の生き物観察。調査キットを利用しての水質調査。生活廃水についての学習。川辺のごみ拾い。
- 3月30日：アマゴの放流と、今後の継続的な観察方法についての学習。

実施した事業の具体的な成果

- ◎奈良県内の子どもと、淀川下流域の大阪府内の子どもの交流ができた。作成した淀川流域マップを見ながら、同じ川でつながっている、という認識を深めあうことができた。
- ◎どこの川であっても今後は、川の環境を自分たちで調査するノウハウや、川辺を汚さないという意識を参加者に身につけてもらえた。→生きる力、まちづくりの視点の育み
- ◎重度障害者、外国人旅行者の参加もあり、多様な人たちの交流の輪が広がった。
- ◎いままでできていなかった川辺や川の中の生物についての記録をとることができた。
- ◎スタッフや参加者が下流とつながっていることを意識するようになり、調理などの後なるべく廃水で汚さないように、注意するようになった。
- ◎参加ファミリー同士の横のつながりができた。家族の垣根を越えたつきあいの促進。
- ◎「ひーとびーとの森」では、いままで参加者の少なかった中・高校生が生物調査をすることで積極的に参加してくれるようになり、低年齢者の遊び・学びの手伝いをしてくれるきっかけになった。

助成事業の実施内容および成果

基金名：東洋ゴムグループ環境保護基金

事業名：ひーとびーとの森・子どもと確かめる淀川源流域の環境

団体名：特定非営利活動法人ほっとねっと

代表者：理事長 伊藤 満

実施事業の内容：

(概要)

ひーとびーとの森のすぐ下を流れる内牧川（淀川源流）での清掃活動や生き物観察、水に関する学習などを通じて環境意識を高める。

(目標としたこと)

◎川の源流域に住む人が下流域に住む人との交流を通じて自分の生活が遠く離れた他者へ影響することを認識し、環境問題の課題のために自分にできることを実践しようという個人意識を高める。また、下流域に住む人に源流域の自然やそこに住む人の暮らしに対する関心を高め、自分の生活を見直すきっかけにもしてもらおう。

◎ただ単に環境問題への関心を高めてもらうだけでなく、地域間交流、世代間交流が進むことによる地域や関心を同じくする者同士のコミュニティ活性化につなげる。

◎昨今の子どもたちが奪われがちな「時間」「空間」「仲間」を豊かな自然の中で取り戻し、それぞれが本来持っている「生きる力」を引き出す。

(実施場所)

冒険遊び場「ひーとびーとの森」（奈良県宇陀市榛原区八滝）

※当 NPO が 2002 年の設立当初から運営

(実施期間) 2007 年 5 月～2008 年 3 月

日程：5 月 19 日、6 月 23 日、7 月 28 日、11 月 18 日、3 月 30 日

(対象)

①奈良県内（特に会場に近い中・南部）の親子・子どもと指導者など大人と子どもの組み合わせ
②淀川下流域にあたる大阪・京都などに住んでいる親子・子どもと指導者など大人と子どもの組み合わせ

(実施内容)

①5 月 19 日、自然観察指導員による指導で川辺の生き物調査による水質調査と巻尺などを利用しての川幅、水深、流れの速さなど源流域ならではの川の様子についての学習の後、フリースクール講師による指導で川辺のゴミ拾い作業を実施。

②6 月 23 日、川辺でのキャンプ経験豊かな講師による指導で川辺の蛍観察と川を汚さないキャンプ料理の調理方法、廃油で作ったキャンドルの照明による夕食会の実施。

③7 月 28 日、淀川の下流域に住む人とともに、自然観察指導員による指導で川の中を歩き、わずかな位置の違いで流れの速さや水深、周辺の動植物の様子が違うことを体感し、自然

環境の変化や水との付き合い方についての学習。川の中の石が、下流のものと形状などが違うことも学習。また実際の道具を見せながら、昔ながらの川魚の捕獲方法についても学習。また、地元の高齢者より食材としての植物についての話を聴く。

④11月18日、ネイチャーゲーム協会指導員による、秋の川辺の生き物についての観察会と調査キットを使つての川の水質調査の実施。環境保全活動の経験の長い指導者による生活廃水と川の関係についての説明。

⑤3月30日、川の環境保全活動経験者と一緒に川へのアマゴの稚魚放流。放流直後のアマゴの様子を観察と、今後の観察方法についての学習。実施最後の日でもあり、参加者全員で川辺の清掃活動をしたかったが悪天候のため、大人の有志のみでゴミ拾いを実施。フリースクール講師による水に対するマナーについての学習。

(成果)

上の森林の部分での冒険遊びとともに、夏場になると川遊びをしていたが、環境問題を考える教材としての川ではなかった。地元出身のスタッフに言われるまでは皆、淀川とつながっているという意識もなかった。今回この事業を行ったことによって環境問題を身近なところから考えることや、一見関係のない他者ともつながっているという認識を持つきっかけになった。奈良県内の川は大和川水系だけであると見られがちなところ、淀川水系もあるということを広く知ってもらえ、奈良県の他府県との多面的なつながりの一端を示せたと思う。今まで、参加者のほとんどが地元（奈良県内）の児童館や子ども会、自然体験の好きなファミリーだったが、大阪府からも親子連れに来てもらったことで、交流に広がりやすくなった。奈良県民にとっては下流の大阪の暮らしを、大阪府民にとっては源流の奈良の暮らしを片隅に意識しながら生活していけるのではないかと思う。交流ということでは、環境問題とは直接関係ないが奈良県内にステイ中の外国人旅行者や車椅子の重度障害者の参加があり、多様な人たちの参加によって今まで接したことのない者同士が自然の中で触れ合うという体験を提供できたと思う。また運営側としても外国人、障害者などの視点でイベントの価値や場所の楽しさを考えることができたし、どのような物や配慮が必要かの情報も多少は蓄積でき、今後に生かすことができると思う。もともと当 NPO では「生きる力」を養うという目的で冒険遊び場「ひーとびーとの森」を「自己責任で自由に遊ぶ」趣旨の「プレイパーク」として運営している。今回は指導の先生も「なるべく自分たちで考え、次回からは自分たちの力で学びを实践できること」を重視してご指導くださった。例えば、川幅や流れの速さを測ったり、生き物の見つけ方や川の中の歩き方、記録のとり方などを一人一人が丁寧に教えてもらった。このことは将来どこに住もうとも、自分の近くの川の様子を今回のノウハウを駆使して自分たちで確かめ、今後の地球市民としての暮らし方を自分たちで考えてまちづくりに参画してくれるであろうと期待している。

(今後について)

- ・事業最終日にアマゴの稚魚を放流した。放流直後の様子の観察も指導してもらったが、今後の定期的なアマゴの生息状況の調べ方も指導してもらった。本事業は終わっても引き続きアマゴの生息状況や、他の動植物の状況、水質調査を継続して調査していきたい。その際は学術的な難しい調査・研究になるのではなく、あくまでも子ども（小学校低学年を基準）の目線で大人も子どもと一緒に観察して情報を広い世代で共有していけるようにしたい。
- ・生き物調査でわかったこの川にいる生き物をデジタルデータとして保存しておき、いつでも誰でも図鑑代わりにできるものを整備していく。
- ・清掃活動はフリースクールの講師の指導により、高校生ボランティアが小学生や保育園児とかかわりながら行った。今後も回数は少なくとも高校生や中学生が自主的に小学生や園児に教えながら清掃活動をするスタイルを定着させたい。

・今回は奈良県内にステイ中の外国人旅行者の参加があったが、それに関わる国際交流活動分野から「英語で触れ合うキャンプをここでやりたい」と打診された。こちらとしても願ってないことで、いろいろな国から来る人と「他の場所とつながっているものとしての川」の学習ができるように企画中。

・2008年度は大阪コミュニティ財団様より「ESD（持続可能な開発教育のための国連10年）」を進めるための助成を受ける。今回の川の学習を今度は「持続可能性」という広い視野に立ち、環境教育だけではなく、人権教育、平和教育、福祉教育、異文化理解教育など異分野相互の相乗性、連動性の中に生かしながらやっていきたいと思っている。

決算書

(2007年度東洋ゴム環境保護基金助成事業「子どもと確かめる淀川源流域の環境」)

収入

調 達 先	金 額 (円)	備 考
助成金	145000	(財) 大阪コミュニティ財団 (東洋ゴム環境保護基金)
助成金	100000	奈良県共同募金会
利用者負担金	35350	大人参加費 300 円、 子ども参加費 150 円+資料代 100 円
自己資金	18574	
収入合計	298924	

支出

項目 (購入品等別に)	金 額 (円)	備 考 (個数×単価、用途など、具体的に記述)
講師謝金	100000	10000 円×2 人×5 回
旅費交通費	80000	2000 円×8 人×5 回
清掃、自然観察に関わ る消耗品	43107	虫眼鏡・あみ・ビニール袋・文房具・軍手・ バケツ・ロープなど
アマゴ放流費	50000	250 円×200 匹
資料作成・送料	18247	資料作成代 4107 円、送料 14140 円
保険代	7570	スタッフ・参加者傷害保険 延べ 250 人分
支出合計	298924	

決算書

(2007 年度東洋ゴム環境保護基金助成事業「子どもと確かめる淀川源流域の環境」)

収入

調 達 先	金 額 (円)	備 考
助成金	145000	(財) 大阪コミュニティ財団 (東洋ゴム環境保護基金)
助成金	100000	奈良県共同募金会
利用者負担金	25650	大人参加費 300 円、子ども参加費 150 円
自己資金	3274	
収入合計	273924	

支出

項目 (購入品等別に)	金 額 (円)	備 考 (個数×単価、用途など、具体的に記述)
講師謝金	100000	10000 円×2 人×5 回
旅費交通費	80000	2000 円×8 人×5 回
清掃、自然観察に関わ る消耗品	43107	虫眼鏡・あみ・ビニール袋・文房具・軍手・ バケツ・ロープなど
アマゴ放流費	25000	250 円×100 匹
資料作成・送料	18247	資料作成代 4107 円、送料 14140 円
保険代	7570	スタッフ・参加者傷害保険 延べ 250 人分
支出合計	273924	

※この用紙に記載されました個人情報、配分に係る業務に利用することを目的とし、
 本会において適正に管理し、無断で第三者に提供しません。

【様式-2】

住みよい地域づくり支援事業 (平成19年度事業)
 共同募金配分金事業完了報告書

平成 年 月 日

社会福祉法人 奈良県共同募金会 様

共同募金の配分を受けた事業について、下記のとおり完了いたしましたので、関係書類を添え報告いたします。また、配分金を交付下さるよう請求いたします。

1. 団体名	特定非営利活動法人 ほっとねっと			
2. 代表者職氏名	理事長 伊藤 満			印
3. 所在地	〒630-8133 奈良県奈良市大宮1-23-1 県解放センター TEL 0742 (64)0015 FAX 0742 (64)1640			
4. 事業名	冒険遊び場「とびとびの森」でアレイパーク			
5. 配分金事業収支報告	※配分を受けた事業についての収支をご記入ください。施設・作業所の1年間の総収支ではありません。 ※事業実施前に配分金の半分を交付しており、この報告書をもって残り分を交付いたします。収入の配分金の欄には、配分金の全額をお書き下さい。			
収入	金額	支出	金額	摘要
共同募金配分金	100,000	講師謝金	100,000	100000人2人 X5回
県市町村社協補助		旅費交通費	80,000	2000人5人X5回
利用者負担金	35,350	教材費	43,107	虫かご、おみ、ロープ バッグなど
自己資金	41,687	食料費	48,133	5回分
その他 助成金 (大阪コンニチ財団)	145,000	アツコ放浪費	25,000	
		保険代	7,570	
		資料作成・送料	18,247	紙代、送料
計	322,037	計	322,037	
6. 共同募金配分金交付請求	配分金額		100,000	円
1回目の交付額	50,000	円	2回目の請求額	50,000
送金先	取扱銀行	南都銀行		
	支店名	県庁出張所		
	口座番号	47287		
	ふりがな	トクティエイリカストウホラジンホトネットソジキョウイトウシル		
	口座名義	特定非営利活動法人 ほっとねっと 理事長 伊藤 満		

6. 具体的事業内容	
① 事業の履歴 (該当項目にチェックして下さい)	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 (毎年継続して行なっている事業で、以前に共同募金の配分を受けた事がある) <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 (毎年継続して行なっている事業で、以前に共同募金の配分を受けた事がない)
② 実施時期	平成19年5月19日 ~ 平成20年3月30日 (通年・短期)
③ 実施場所	冒険遊び場「ひとびとの森」(奈良県宇陀市 榛原区八滝)
④ 実施回数・ 総利用者数・件数	5 回・ 134 人・ 件
⑤ 事業詳細についてご記入下さい。 毎回自己責任で自由に遊ぶ「フレムパーク」とご共催	
5月19日: 自然観察指導員の指導で川の生き物観察	
6月23日: 川辺の虫観察と川と汚さぬ！キャンプ料理作りと夕食会	
7月28日: 川ウォーキング。昔の角釣りのおまじや地域食料学習	
11月18日: ネットゲーム協会指導で森の中ゲーム	
3月30日: アマガの稚魚放流観察と釣り教室	
⑥ 事業によってどのような効果があったかご記入下さい。	
<p>全5回という連続性のおかげで参加者にリピーターが増え、スタッフ参加者同士の親しみあひ結けむきつかりになった。外国人旅行者や重度障害者の参加もあり。多様な交流ができた。トイレや道などバリアフリー化が再点検あることできた。</p> <p>多様な講師やスタッフが関わったこと。遊び場の良面や課題を新発見できた。</p>	
7. 寄付者へのありがとうメッセージ (寄付者に対する感謝の言葉)	
<p>川に入っ思ひやり遊んだり。生きものについて学んだり。森の中でゲームを通じて自然を感じたり。蒔でごはんを炊いたり。お菓子をついたり。と普段はできないことと。冒険遊び場「ひとびとの森」へ来て、作ること。体験できます。参加者の子どもももちろん。大人にも生き生きと自分で帰っていきおきました。このような貴重な時間・空間・仲間を提供できましたのも、皆様の心のこもった寄付のおかげです。お一人お一人の善意に支えられていることを意識し、強く思った1年でした。</p>	

